

新学習指導要領改訂のポイントと学習評価 (高等学校 保健体育科)

文部科学省

スポーツ庁

政策課教科調査官 関 伸夫 横嶋 剛

目次

1.新学習指導要領の改訂のポイント

- 1-1 高等学校学習指導要領の改訂のポイント
- 1-2 保健体育科の改訂のポイント
- 1-3 保健体育科の目標の改善
- 1-4 科目体育
- 1-5 科目保健

2.新学習指導要領に対応した学習評価

- 2-1 学習評価の改善
- 2-2 科目体育
- 2-3 科目保健

1. 新学習指導要領の改訂のポイント

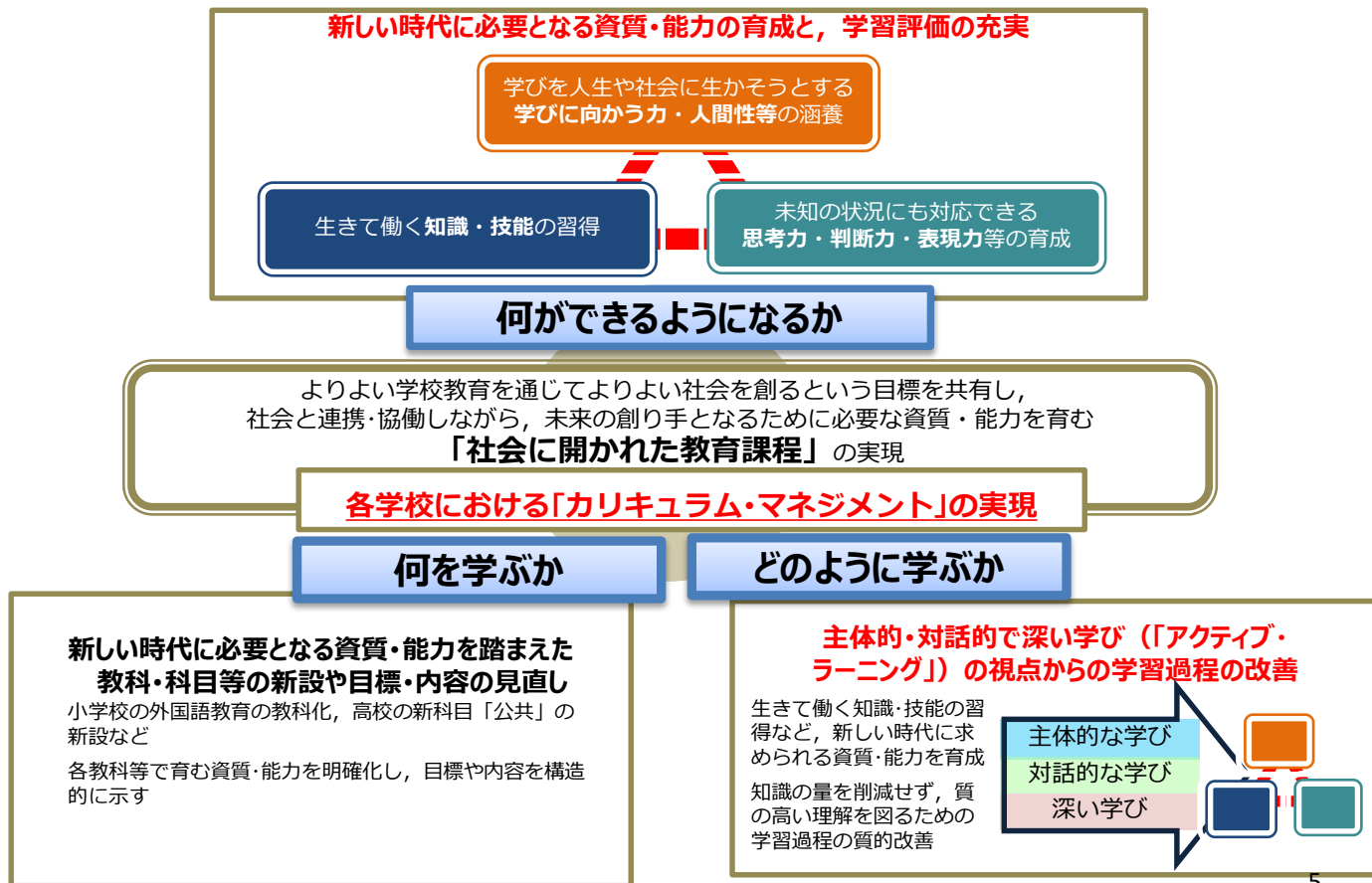
1-1 高等学校学習指導要領の改訂のポイント

新学習指導要領等に向けて改善すべき事項（中教審答申 H28.12.21）

新しい学習指導要領等に向けては、以下の6点に沿って改善すべき事項をまとめ、枠組みを考えていくことが必要となる。

- ①「**何ができるようになるか**」（育成を目指す資質・能力）
- ②「**何を学ぶか**」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
- ③「**どのように学ぶか**」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）
- ④「**子供一人一人の発達をどのように支援するか**」（子供の発達を踏まえた指導）
- ⑤「**何が身に付いたか**」（学習評価の充実）
- ⑥「**実施するために何が必要か**」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

新学習指導要領の全体構造



育成を目指す資質・能力の明確化

学校教育法第30条第2項が定めるいわゆる学力の三要素（「基礎的な知識及び技能」「これらを活用して課題を解決するために思考力，判断力，表現力その他の能力」「主体的に学習に取り組む態度」）を議論の出発点としながら，学習する子供の視点に立ち，**育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で再整理。**

学びに向かう力，人間性等

どのように社会・世界と関わり，
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力，判断力，表現力等

【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう，基礎的な知識及び技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ，主体的に学習に取り組む態度を養うことに，特に意を用いなければならない。

保健体育の学習を通して、育成を目指す

- (1)「知識及び技能」とは？
- (2)「思考力，判断力，表現力等」とは？
- (3)「学びに向かう力，人間性等」とは？



指導と評価を一体化させるためには，高等学校保健体育で育成を目指す資質・能力を理解するとともに，育成に向けた学習活動を踏まえて単元計画等を作成することが重要。

1. 新学習指導要領の改訂のポイント

1-2 保健体育科の改訂のポイント

高等学校 保健体育科の改訂のポイント

- 「**体育**」においては、育成を目指す資質・能力を明確にし、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を育成することができるよう、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を重視し、目標及び内容の構造の見直しを図ること。
- 「カリキュラム・マネジメント」の実現及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する観点から、発達の段階のまとまりを踏まえ、指導内容の系統を改めて整理し、各領域で身に付けさせたい指導内容の一層の充実を図ること。
- 運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を卒業後も社会で実践することができるよう、共生の視点を重視して指導内容の充実を図ること。
- 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続することを重視し、小学校、中学校及び高等学校を見通した指導内容の体系化を図る観点から資質・能力の三つの柱ごとの指導内容の一層の明確化を図ること。

高等学校 保健体育科の改訂のポイント

- 「保健」においては、生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することができるよう、「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」に対応した目標，内容に改善すること。
- 個人及び社会生活における健康課題を解決することを重視する観点から，現代的な健康課題の解決に関わる内容，ライフステージにおける健康の保持増進や回復に関わる内容，人々の健康を支える環境づくりに関する内容及び心肺蘇生法等の応急手当の技能に関する内容等を充実すること。
- 「体育」と一層の関連を図る観点から，心身の健康の保持増進や回復とスポーツとの関連等の内容等について改善すること。
- 生涯にわたって健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを継続する観点から，「体育」と「保健」の一層の関連を図った指導等の改善を図ること。

1. 新学習指導要領の改訂のポイント

1-3 保健体育科の目標の改善

高等学校 保健体育科の目標の改善

【平成 2 1 年】

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。



【平成 3 0 年】

柱書	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
学びに向かう力、人間性等	(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

1. 新学習指導要領の改訂のポイント

1-4 科目 体育

内容及び内容の取扱いの改善【科目 体育】

○ 資質・能力の三つの柱を踏まえた内容構造の見直し

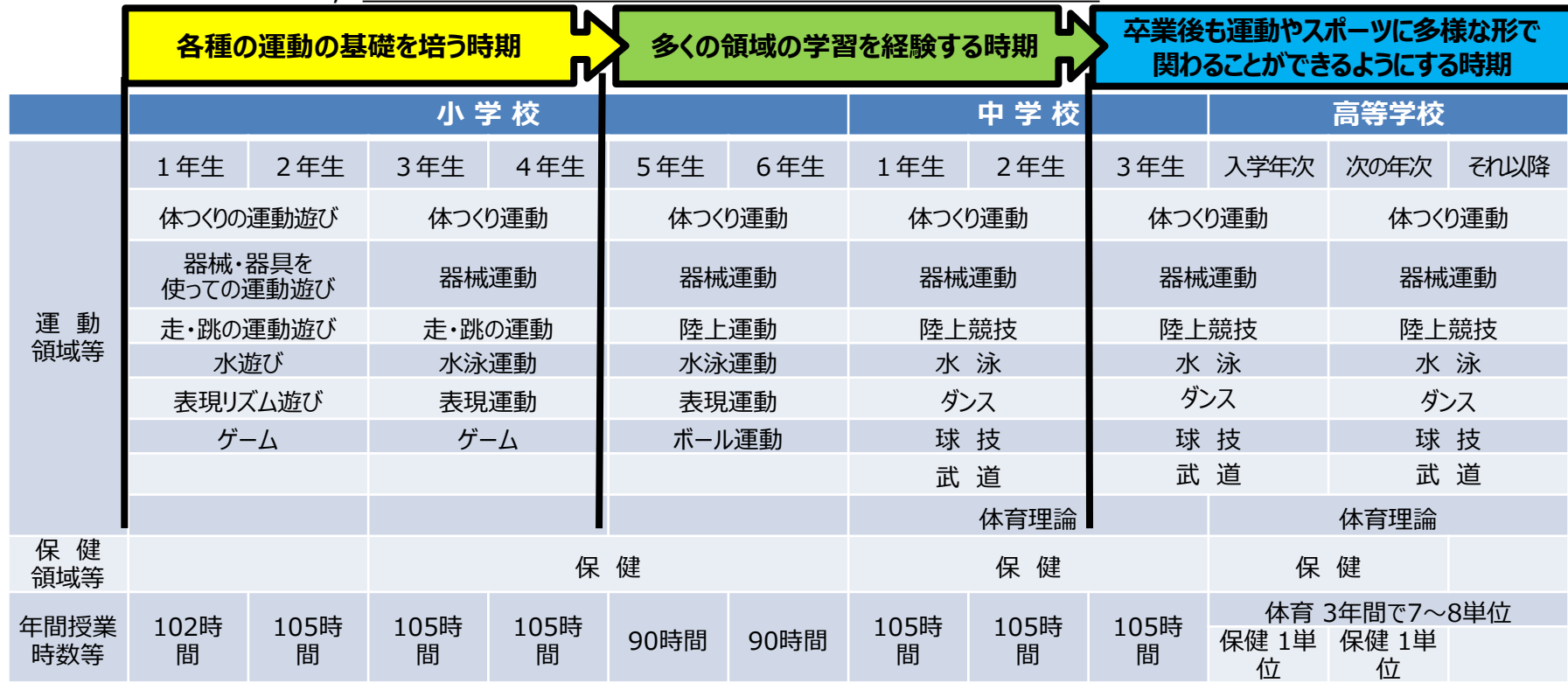
「体育」において育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を育成する観点から、運動に関する「知識及び技能」（中学校段階以降の知識では、運動の技能につながる知識のみならず、運動の成り立ちや多様な楽しみ方につながる知識等も含む）、運動課題等の発見・解決のための「思考力、判断力、表現力等」、主体的に学習に取り組む態度等の「学びに向かう力、人間性等」に対応した内容を示すこととした。

○ 12年間の系統性を踏まえた指導内容の見直し

小学校から高等学校までの12年間を見通して、各種の運動の基礎を培う時期、多くの領域の学習を経験する時期、卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるができるようにする時期といった発達の段階のまとまりを踏まえ、系統性を踏まえた指導内容の見直しを図るとともに指導内容の重点化を図ることとした。

指導内容の体系化 【科目 体育】

- ◆**体育科・保健体育科では、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成**
- ◆**小学校から高等学校までの12年間の系統性、発達の段階を踏まえて、4年ごとのまとまりで指導内容を体系化**
- ◆**小学校から高等学校まで、体育科・保健体育科の授業を1週間で3時間程度実施**



内容及び内容の取扱いの改善【科目 体育】

○ 運動やスポーツとの多様な関わり方を重視した内容及び内容の取扱いの充実

豊かなスポーツライフを継続していくためには、運動の技能を高めていくことのみならず、体力や技能の程度、性別や障害の有無、目的等の違いを越えて、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することが求められる。そのため、新たに共生の視点を踏まえて指導内容を示すこととした。

また、「内容の取扱い」及び「指導計画と内容の取扱い」に、生徒が選択して履修できるようにすること、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず運動やスポーツを楽しむことができるよう男女共習を原則とすることを示すとともに、生徒の困難さに応じた配慮の例を示した。

○ 指導内容の一層の明確化

指導と評価の一体化を一層推進する観点から、（１）知識及び技能（「体づくり運動」は知識及び運動）、（２）思考力、判断力、表現力等、（３）学びに向かう力、人間性等の指導内容を一層明確にするため、解説において、従前、技能及び思考・判断で示していた例示を、全ての指導内容で示すこととした。

内容及び内容の取扱いの改善【科目 体育】

○体づくり運動

従来「体力を高める運動」として示していたものを、「実生活に生かす運動の計画」として新たに示した。

○陸上競技

バトンの受渡しの指導内容を新たに示した。

○水泳

「泳法との関連において水中からのスタート及びターンを取り上げること」及び「入学
年次の次の年次以降は、安全を十分に確保した上で、
学校や生徒の実態に応じて段階的な指導を行うことが
できること」を新たに示した。

内容及び内容の取扱いの改善【科目 体育】

○ 武道

「柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などを通して、我が国固有の伝統と文化により一層触れることができるようにすること」を新たに示すとともに、学校や地域の実態に応じて、従前から示されている相撲、なぎなた、弓道に加えて、空手道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などについても履修させることができることを新たに示した。

○ 体育理論

「体育理論」については、スポーツの意義や価値の理解につながるよう、従前、（１）スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、（２）運動やスポーツの効果的な学習の仕方、（３）豊かなスポーツライフの設計の仕方で構成していたことを一部改め、（１）スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展、（２）運動やスポーツの効果的な学習の仕方、（３）豊かなスポーツライフの設計の仕方で構成することとした。

1. 新学習指導要領の改訂のポイント

1-5 科目 保健

○ 「保健」の内容

個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を通して健康についての総合的な認識を深め、保健の見方・考え方を働かせ、生涯を通じて自他や社会の健康に関する課題を解決していくための資質や能力の育成を図ることに重点を置き、小学校、中学校の内容を踏まえた系統性のある指導ができるよう改訂を行った。

また、指導に当たっては、心と体を一体的に捉えるとともに、「保健」と「体育」の内容を密接に関連付けて取り扱うよう配慮するものとした。

○ 内容の構成

個人及び社会生活における健康課題を解決することを重視する観点から、従前の「現代社会と健康」、「生涯を通じる健康」及び「社会生活と健康」の3項目を「現代社会と健康」、「安全な社会生活」、「生涯を通じる健康」及び「健康を支える環境づくり」の4項目とした。内容については、個人及び社会生活に関する事項を正しく理解し、思考・判断・表現できるようにするため、他教科及び小学校、中学校の内容との関連を考慮して高等学校における基礎的事項を明確にした。

○ 現代社会と健康

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康課題や健康の考え方が変化するとともに、様々な健康への対策、健康増進の在り方が求められていることを踏まえて、現代における健康課題とその予防及び対策について内容を整理し充実した。

その際、国民の健康課題や健康の考え方を充実して示すとともに、現代の感染症とその予防、生活習慣病などの予防と回復、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について項目を立てて充実することとした。特に生活習慣病などの予防と回復にがんを取り上げるとともに、精神と健康の内容を改善し、精神疾患の予防と回復の内容を新しく示し、より現代における健康課題に対応することとした。

なお、従前示されていた交通安全と応急手当については、新しい内容のまとめりである「安全な社会生活」に移動することとした。

○ 安全な社会生活

小学校、中学校の系統性及び安全に関する指導を重視する観点から、新たに示すこととした。その際、従前「現代社会と健康」に示されていた交通安全と応急手当に関する内容を重視するとともに、高等学校の個人及び社会生活に関する健康・安全を重視する観点から、交通安全を含めた安全な社会づくりを明確にした。また、心肺蘇生法等の応急手当についての技能の内容を明確にした。

○ 生涯を通じる健康

従前の内容を踏まえて、生涯にわたって健康を保持増進していくためには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理と環境づくりが重要であることを示した。また、従前「社会生活と健康」に示されていた労働と健康について、生涯の各段階と関連が深いことから、ここに位置付けた。

なお、これまで「生涯を通じる健康」に示されていた保健・医療制度及び地域の保健・医療機関などの活用や様々な保健活動に関する内容は、自然環境、社会環境を含めた「健康を支える環境づくり」の内容に移動することとした。

○ 健康を支える環境づくり

自然環境だけでなく、個人を取り巻く社会の制度、活動などの社会環境などが深く関わっている。したがって、全ての人々が健康に生きていくためには、個人が健康的な行動を選択するとともに、環境と健康、食品の安全性の確保のための環境づくりや保健・医療機関等の社会環境の活用を推進していくことが必要であるという考え方を重視し、内容を整理し明確にした。具体的な内容としては、従来「社会生活と健康」に示されていた自然環境を中心とした環境と健康、食品と健康を引き続き示すとともに、社会環境に関することとして、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関などの適切な活用、我が国や世界において様々な保健活動や対策などが行われていることについての内容を、ここに位置付けた。さらに、健康に関する環境づくりと社会参加に関する内容を新たに位置付けた。

2.新学習指導要領に対応した学習評価

2.新学習指導要領に対応した学習評価

2-1 学習評価の改善

学習評価の意義

子供たちの学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、学習評価の在り方が極めて重要

幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申） 平成28年12月21日 中央教育審議会

学習評価の基本的な考え方

学習評価の改善の基本的な方向性

学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

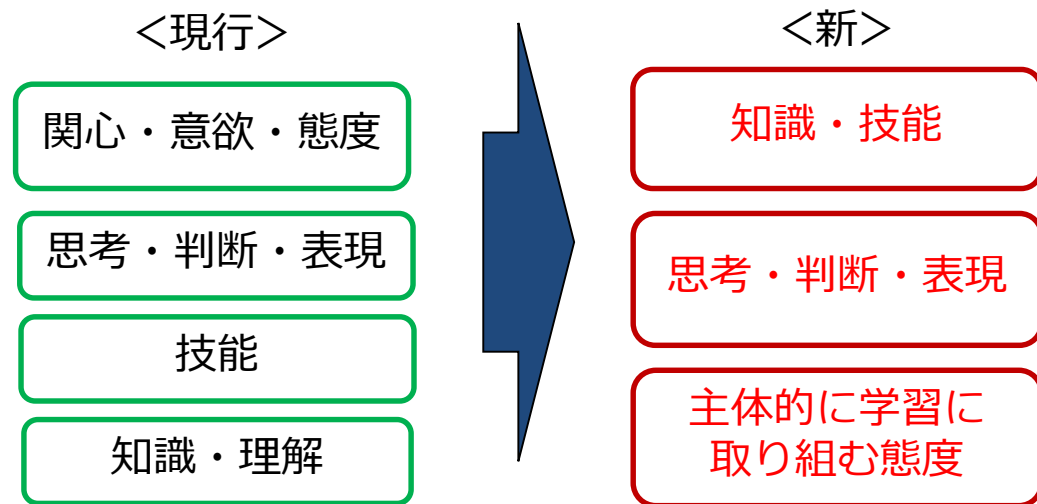
児童生徒の学習評価の在り方について（報告）

平成31年1月21日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会

学習評価の基本的な考え方

観点別学習状況の評価の観点の整理

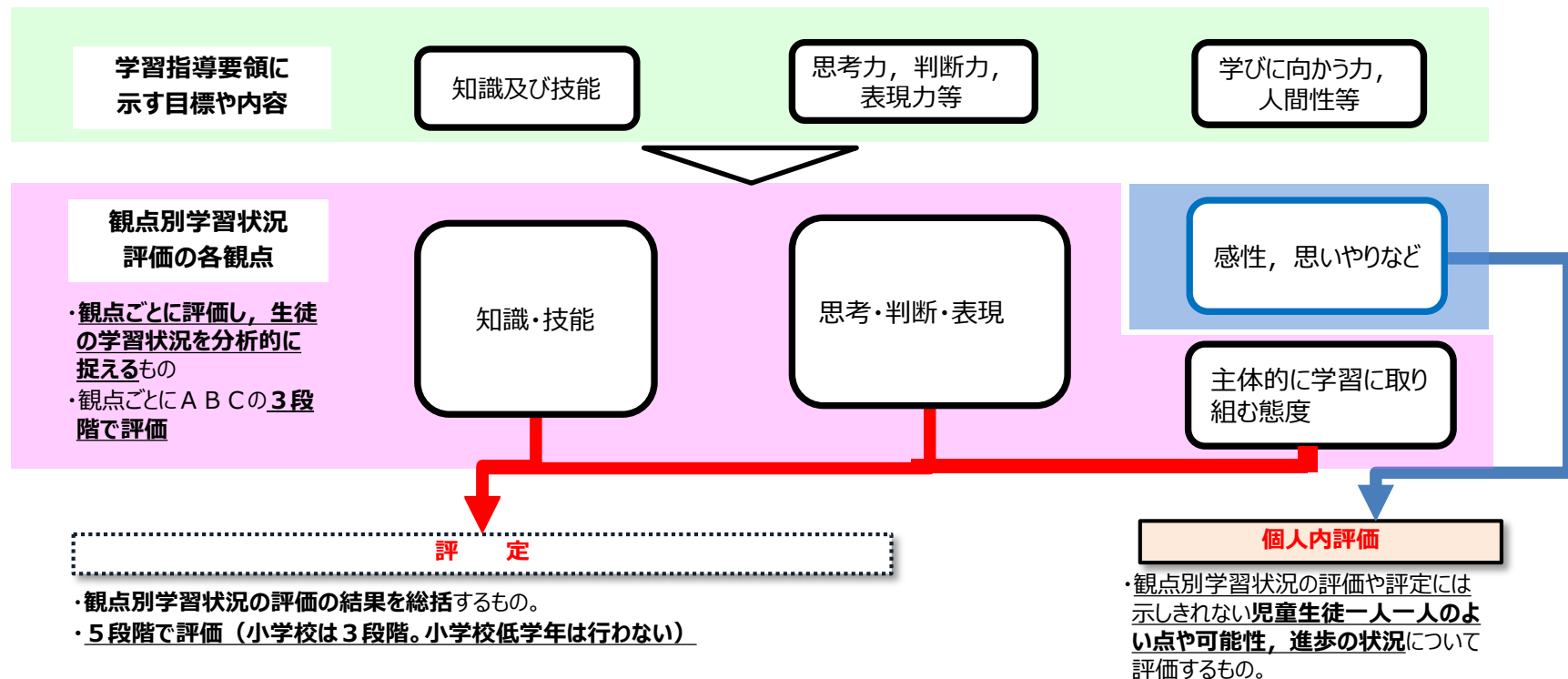
資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理。



学習評価の基本的な考え方

評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



2.新学習指導要領に対応した学習評価

2-2 科目 体育

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

事例 1

指導と評価の計画から評価の総括まで
器械運動（それ以降の年次）

事例 2

「知識・技能」の評価
武道（剣道）（入学年次）

事例 3

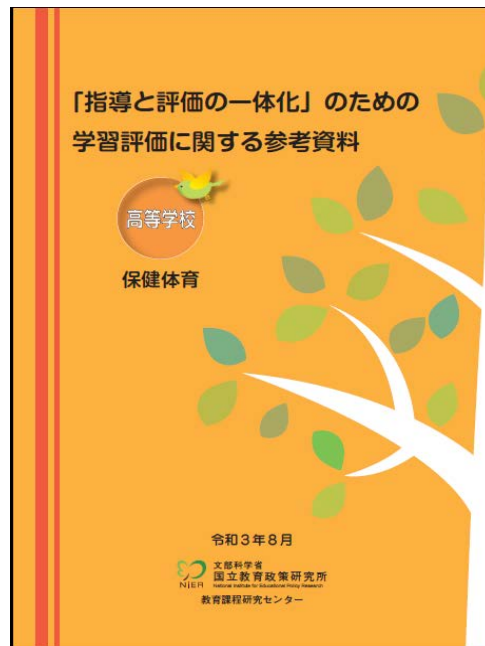
「思考・判断・表現」の評価
体づくり運動（それ以降の年次）

事例 4

「主体的に学習に取り組む態度」の評価
球技（その次の年次）

事例 5

専門学科体育
「スポーツの推進及び発展に必要な技能の指導と評価」



「学習指導要領」等と「評価の観点及びその趣旨」や「評価規準」との対応関係

学習指導要領，解説

学習指導要領:目標

- ◆「第1款 目標」
- ◇「第2款 各科目 第1 体育 1 目標」

評価の観点及びその趣旨，評価規準

◆評価の観点及びその趣旨

◇評価の観点の趣旨

- ◆各教科等の学習指導要領の目標の規定を踏まえ，観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理したもの。
(教科の評価の観点及びその趣旨：改善等通知 別紙5)
- ◇科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」

「学習指導要領」等と「評価の観点及びその趣旨」や「評価規準」との対応関係

学習指導要領，解説

学習指導要領：目標

- ◆「第1款 目標」
- ◇「第2款 各科目 第1 体育 1 目標」

評価の観点及びその趣旨，評価規準

◆評価の観点及びその趣旨

◇評価の観点の趣旨

- ◆各教科等の学習指導要領の目標の規定を踏まえ，観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理したもの。
(教科の評価の観点及びその趣旨：改善等通知 別紙5)
- ◇科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」

学習指導要領：内容

- ◆「第2款 各科目 第1 体育 2 内容」
- 当該領域（A～H）参照

内容のまとめごとの評価規準

学習指導要領の目標に照らして観点別学習状況の評価を行うに当たり，生徒が資質・能力を身に付けた状況を表すために，「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したもの等。

内容のまとめりごとの評価規準

【内容のまとめり】

学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたもの。

高等学校「体育」の内容のまとめり

〔入学年次〕

A 体づくり運動

B 器械運動

C 陸上競技

D 水泳

E 球技

F 武道

G ダンス

H 体育理論 (1)スポーツの文化的特性や
現代のスポーツの発展

〔入学年次の次の年次以降〕

A 体づくり運動

B 器械運動

C 陸上競技

D 水泳

E 球技

F 武道

G ダンス

H 体育理論 (2)運動やスポーツの効果的な学習の仕方
(3)豊かなスポーツライフの設計の仕方

「学習指導要領」等と「評価の観点及びその趣旨」や「評価規準」との対応関係

学習指導要領，解説

学習指導要領:目標

- ◆「第1款 目標」
- ◇「第2款 各科目 第1 体育 1 目標」

学習指導要領：内容

- ◆「第2款 各科目 第1 体育 2 内容」
- 当該領域（A～H）参照

単元の目標

評価の観点及びその趣旨，評価規準

◆評価の観点及びその趣旨

◇評価の観点の趣旨

- ◆各教科等の学習指導要領の目標の規定を踏まえ，観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理したもの。
（教科の評価の観点及びその趣旨：改善等通知 別紙5）
- ◇科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」

内容のまとめりごとの評価規準

学習指導要領の目標に照らして観点別学習状況の評価を行うに当たり，生徒が資質・能力を身に付けた状況を表すために，「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したもの等。

単元の評価規準

「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ，各学校の実態を考慮し，単元の評価規準等，学習評価を行う際の評価規準を作成する。

単元の評価規準作成のポイント

単元の評価規準作成のポイント：解説の〈例示〉の文末を変換するなどして作成

知識・技能

○知識

例示の文末を「～について、言ったり、書き出したりしている」あるいは「～について、学習した具体例を挙げている」に変換するなどして、評価規準を作成する。

・前者は一般的に認知された科学的な知識を内容とするもので、各学校や教師の指導によって大きな相違がないものに用いている。後者は、学校や生徒の実態に合わせて、指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるものに用いている。

○技能

例示の文末を「～ができる」に変換するなどして、評価規準を作成する。

思考・判断・表現

例示の文末を「～している」に変換するなどして、評価規準を作成する。

主体的に学習に取り組む態度

意思や意欲を育てるという情意面の例示に対応し、「～しようとしている」に変換するなどして、評価規準を作成する。

ただし、健康・安全に関する例示については、意欲を持つことにとどまらず実践することが求められているものであることから、「～確保している」に変換するなどして、評価規準を作成する。

全ての「単元の評価規準」の作成

その次の年次以降
「器械運動」

内容のまとまりにおける全ての「単元の評価規準」を作成する。
(解説の<例示>の文末を変換した例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none">・器械運動では、技の系、技群、グループの系統性の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。・器械運動の種目によって必要な体力要素があり、その種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。・課題解決の方法では、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、演技や発表を通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、言ったり書き出したりしている。・自己の能力に応じた技で組み合わせたり、異なる技群で構成したりするなどの発表に向けた演技構成の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている。・発表会や競技会で、演技構成の仕方、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。	<p>○技能</p> <p>ア マット運動</p> <p>○接転技群</p> <ul style="list-style-type: none">・新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる。・開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ることができる。・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。 <p>○ほん転技群</p> <ul style="list-style-type: none">・新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回転することができる。・開始姿勢や終末姿勢、支持の仕方や組合せの動きなどの条件を変えて回転することができる。・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。 <p>○平均立ち技群</p> <ul style="list-style-type: none">・新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて静止することができる。・姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止することができる。・学習した基本的な技の条件を発展させて、一連の動きで静止することができる。 <p>※鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動は省略</p>	<ul style="list-style-type: none">・選択した技の行い方や技の組合せ方について、自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。・課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見している。・自己や仲間の課題を解決するための練習の計画を立てている。・練習や演技の場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案している。・グループでの学習で、状況に応じて自己や仲間の役割を提案している。・体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに器械運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。・器械運動の学習成果を踏まえ、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。 <p>・器械運動の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none">・自己の状況にかかわらず、よい演技を読もうとしている。・自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。・危険の予測をしながらか回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。

当該单元における「単元の評価規準」の設定

全ての「単元の評価規準」から選ぶなどして、当該单元における「単元の評価規準」を設定する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>① 器械運動では、技の系、技群、グループの系統性の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・器械運動の種目によって必要な体力要素があり、その種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>② 課題解決の方法では、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、演技や発表を通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・自己の能力に応じた技で組み合わせたり、異なる技群で構成したりするなどの発表に向けた演技構成の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・発表会や競技会で、演技構成の仕方、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>ア マット運動</p> <p>○接転技群</p> <p>① 新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる。</p> <p>② 開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ることができる。</p> <p>③ 学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。</p> <p>○ほん転技群</p> <p>① 新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回転することができる。</p> <p>② 開始姿勢や終末姿勢、支持の仕方や組合せの動きなどの条件を変えて回転することができる。</p> <p>③ 学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。</p> <p>○平均立ち技群</p> <p>① 新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて静止することができる。</p> <p>② 姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止することができる。</p> <p>③ 学習した基本的な技の条件を発展させて、一連の動きで静止することができる。</p> <p>※鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動は省略</p>	<p>① 選択した技の行い方や技の組合せ方について、自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。</p> <p>・課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見している。</p> <p>・自己や仲間の課題を解決するための練習の計画を立てている。</p> <p>② 練習や演技の場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案している。</p> <p>・グループでの学習で、状況に応じて自己や仲間の役割を提案している。</p> <p>③ 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに器械運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。</p> <p>・器械運動の学習成果を踏まえ、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。</p>

各観点の評価のポイント

知識・技能

体育の学習においては、「知識・技能」を総括した評価を提示するだけでは、生徒自身が自らの学びを改善するための情報が不足することが考えられる。そのため、知識と技能の関連を図りながら指導を充実した上で、**知識と技能それぞれの学習状況を生徒に適切にフィードバック**できるようにすることが大切である。

思考・判断・表現

生徒が思考し、判断することができるようにするための知識や技能を検討するとともに、活用させる場面の設定やどのような活動をさせるのか、について具体化することが求められる。こうした点からも、**各指導内容や評価規準を整理し、指導内容間のつながりを確認**しておくことが重要となる。

学習の実現状況を的確に捉えるため、**判断の目安を事前に作成**し、それにあてはめる形で評価することも考えられる。

主体的に学習に取り組む態度

各教科等によって、評価の対象に特性があることに留意する必要がある。例えば、**体育・保健体育科の運動に関する領域においては、公正や協力などを、育成する「態度」として学習指導要領に位置付けており、各教科等の目標や内容に対応した学習評価が行われることとされている。**

各観点の指導場面と評価機会の関係

- 「知識・技能」の観点の「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」における評価は、技能の獲得、向上や態度の育成等に一定の学習期間が必要となること、主に観察評価によって評価を行うことから、指導後に一定の学習期間及び評価期間を設けるなどの工夫が考えられる。
- 「知識・技能」の観点の「知識」及び「思考・判断・表現」における評価は、主に学習ノート等に記述された内容から評価の材料を得ることから、指導から期間を置かず評価をするなどのことが考えられる。
さらに、生徒の発言等の観察評価によって得られた評価の材料を加味して評価の妥当性、信頼性等を高める工夫が考えられる。

観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括の例

総括の方法の例

◆評価結果のA, B, Cの数を基に総括する。
例) AAB→A

◆評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて
総括する。

例) $A \overset{\circ}{=} 5$, $A = 4$, $B = 3$, $C = 2$, $C \overset{\Delta}{=} 1$
 $A > 4.00$ $4.00 \geq B \geq 2.50$ $2.50 > C$

単元名		体づくり運動		体育理論		全領域選択Ⅰ (器械運動)		総括(平均点) <比率%>		評定 (平均値)
時間数		5		3		18				
生徒	項目	評価	評価 規準数	評価	評価 規準数	評価	評価 規準数	知識・技能の総 括の考え方		
	知	B B (3)(3)	2	A A (4)(4)	2	B B A (3)(3)(4)	3	A or B (3.43)	A or B (3.80)	4 or 3
	技					A° A A° (5)(4)(5)	3	A or B (4.67)	<xx%>	
	思	A A (4)(4)	2	A (4)	1	A B B B (4)(3)(3)(3)	4	A or B (3.57)	<xx%>	
	態	B (3)	1		0	A A A° (4)(4)(5)	3	A or B (4.00)	xx% >	

学期をまたいだ
領域の扱い

観点別学習状況の評価
3段階or5段階

評価規準数

3観点の総括
の比率

評定への総括
の考え方

指導と評価の計画の作成

指導と評価の一体化に向けては、
「**指導と評価の計画**」を作成
することが重要。

単元の目標

学習の流れ

評価機会

単元の 評価規準

[illegible]

指導事項の重点化

「器械運動」
その次の年次以降
2回の単元

内容のまとめりに
おける指導事項を
確認。
※解説の＜例示＞を
参考。

例) 2年間にわたる2回の単元における指導事項を重点化して配置する。

		その次の年次 3領域選択 I															
		器械運動選択															
指導事項		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
知識	1.技の名称や行い方				○	○	●										
	2.体力の高め方	●															
	3.課題解決の方法							●									
	4.発表の仕方																●
技能 マット運動	○回転技群																
	1.基本的な技を滑らかに安定させて行う			△	△		●										
	2.条件を変えて回る																
	3.発展させて一連の動きで回る																
	○ほん転技群																
	1.基本的な技を滑らかに安定させて回転する																
	2.条件を変えて回転する																
	3.発展させて一連の動きで回転する																
	○平均立ち技群																
	1.基本的な技を滑らかに安定させて回転する																
	2.条件を変えて回転する																
	3.発展させて一連の動きで回転する																
鉄棒運動		略															
平均台運動		略															
技能 跳び箱運動	○切り返し飛びグループ																
	1.基本的な技を滑らかに安定させて飛び越す			△	△		●										
	2.条件を変えて飛び越す																
	3.発展させて一連の動きで飛び越す																
	○回転跳びグループ																
	1.基本的な技を滑らかに安定させて飛び越す																
	2.条件を変えて飛び越す																
	3.発展させて一連の動きで飛び越す																
思考力、判断力、表現力等	1.技の行い方や組み合わせ方の良い点や危険点を指摘する					●											
	2.自己や仲間の新たな課題を発見する							●									
	3.課題解決のための計画を立てる				●												
	4.危険を回避するための活動の仕方を提案する																
	5.役割を提案する																
	6.違いを超えて楽しむための調整の仕方を見付ける																
	7.生涯にわたって楽しむための関わり方を見付ける																●
学びに向かう力、人間性等	1.主体的に取り組もうとする	※															
	2.良い演技を讃えようとする																
	3.互いに高め合い助け合おうとする																
	4.一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとする																
	5.健康・安全を確保する																

指導と評価の計画の作成

単元の評価規準

思・判・表:①

練習や演技の場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案している。

態度:②

自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。

思・判・表:③

体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに器械運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。

時	9	10	11	12	13	14
学習の流れ	運動 ・ 本時の目標 ・ 内容等の確認					
	やりかご・かえる跳び・川渡り・ブリッジなど)					
	・「マット・鉄棒・平均台・跳び箱」の中から最終の演技発表会とは異なる2種目の演技を構成する		・簡易演技発表会（2種目・5つの技） （跳び箱は2つの技） ・演技しやすい場やルールを考える		・グループでのマット運動の演技を考え見せ合う （体力や技能及び性別等の違いを生かす）	
	危険回避提案	互いに高め合い助け合い	違いを超えて楽しむ調整の仕方を見付ける			
評価機会	運動 ・ 本時の振り返り					
	知					
	技					
	思	①		③		
評価機会	態		②			③

2.新学習指導要領に対応した学習評価

2-3 科目 保健

参考資料掲載事例

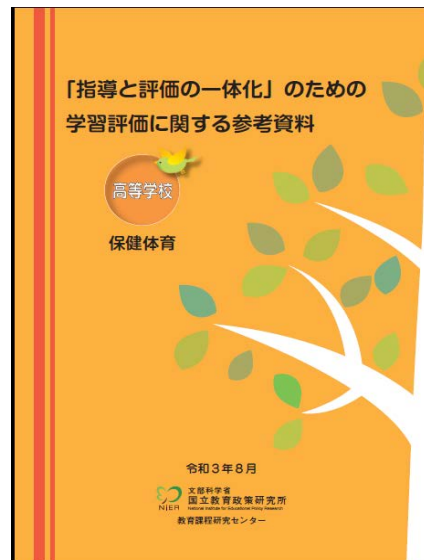
事例 6 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで
「環境と健康」（その次の年次）

事例 7 キーワード 「知識・技能」の評価
「応急手当」（入学年次）

事例 8 キーワード 「思考・判断・表現」の評価
「労働と健康」（その次の年次）

事例 9 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価
「生活習慣病などの予防と回復」（入学年次）

* 科目保健の履修学年については、原則として入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修させることになっている。本事例6～9では仮の年次を位置付けているが、各学校において検討の上決定することとなる。

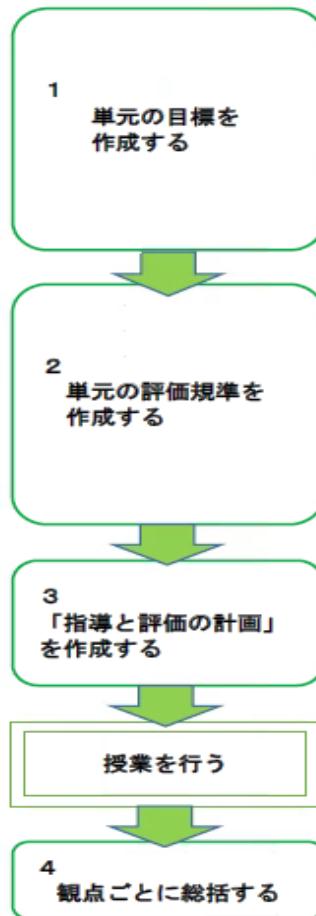


学習評価の進め方（科目保健）

評価の進め方

- 単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要。
- 学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、右図のように進めることが考えられる。
- 「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、解説の表記などを用いて学習活動レベルに対応した「単元の評価規準」作成する。

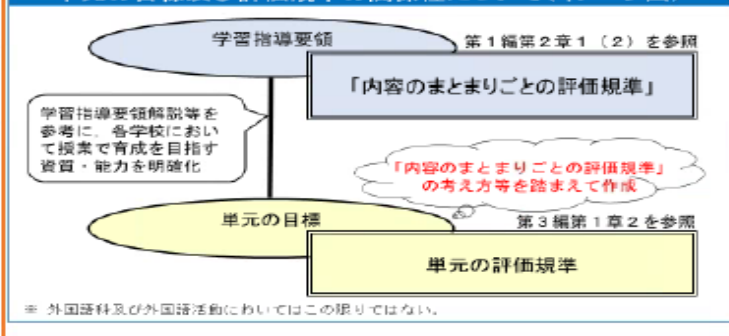
評価の進め方



留意点

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。
- ※ 単元の目標及び評価規準の関係性（イメージ）については下図参照

単元の目標及び評価規準の関係性について（イメージ図）



- 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的评价（A, B, C）を行う。

学習評価の進め方（科目保健）

「単元の評価規準」と「学習活動に即した評価規準」

「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、解説の表記などを用いて学習活動レベルに対応した「単元の評価規準」を作成する。これは、これまでの「学習活動に即した評価規準」と同じ性質をもつものといえる。そのため、本事例では、「学習活動に即した評価規準」は別途提示しないこととした。

単元の考え方

「単元とは、各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的な一まとまりのこと」としている。科目保健では、「内容のまとまり」をそのまま「単元」として捉える場合と、「内容のまとまり」をいくつかの「単元」分けて単元設定する場合が想定される。

単元の設定例（科目保健）

【高等学校科目保健の単元設定例】 |

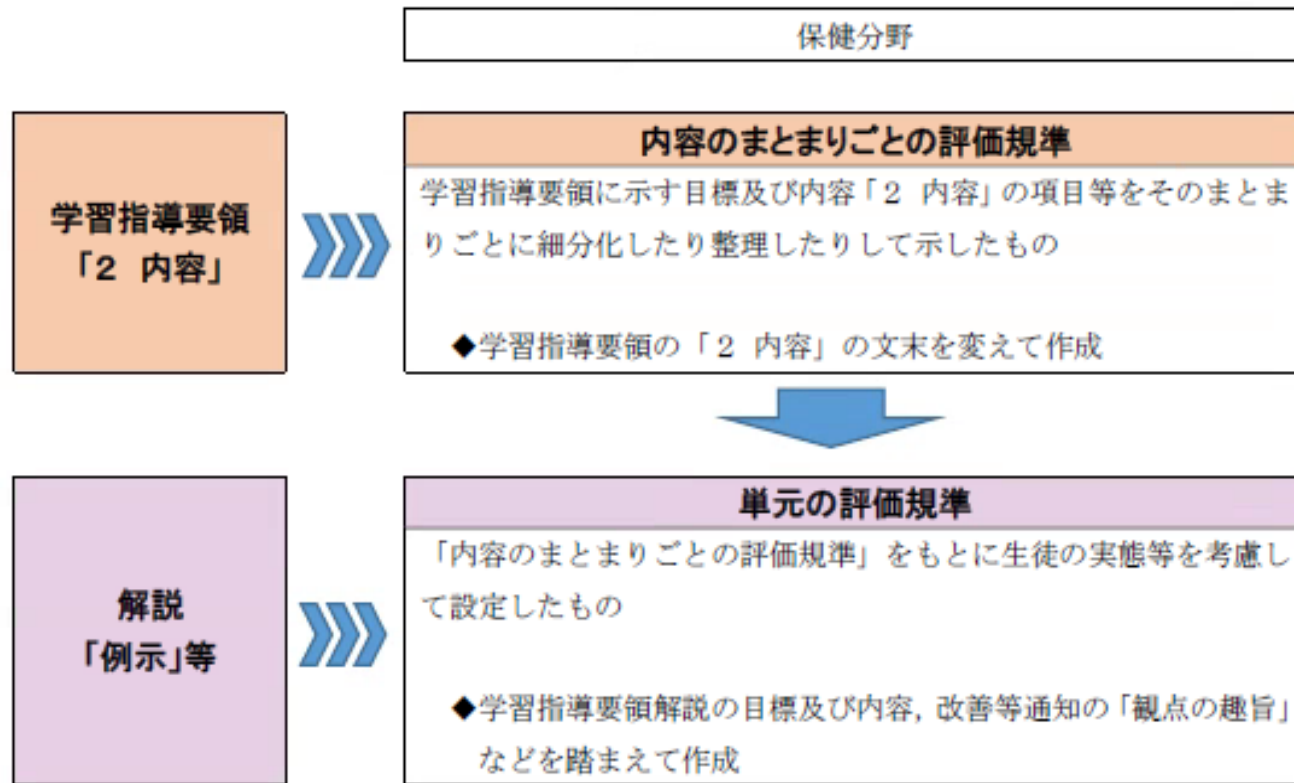
内容のまとめり	単元例	学年* ¹	時数* ²
(1) 現代社会と健康	(ア)健康の考え方	入学年次	4
	(イ)現代の感染症とその予防	入学年次	5
	(ウ)生活習慣病などの予防と回復	入学年次	4
	(エ)喫煙，飲酒，薬物乱用と健康	入学年次	7
	(オ)精神疾患の予防と回復	入学年次	4
(2) 安全な社会生活	(ア)安全な社会づくり	入学年次	5
	(イ)応急手当	入学年次	6
(3) 生涯を通じる健康	(ア)生涯の各段階における健康	その次の年次	7
	(イ)労働と健康	その次の年次	4
(4) 健康を支える環境づくり	(ア)環境と健康	その次の年次	5
	(イ)食品と健康	その次の年次	5
	(ウ)保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	その次の年次	6
	(エ)様々な保健活動や社会的対策	その次の年次	3
	(オ)健康に関する環境づくりと社会参加	その次の年次	5

*¹ 保健の履修学年については原則として入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修させることとなっている。単元設定および履修学年は各学校において検討の上決定することとなる。

*² 単元の配当時数については，生徒の実態等を考慮し，各学校において決定する。ここでは，標準単位数が2であることを踏まえ，年間35時間で示した。

学習評価の進め方（科目保健）

「内容のまとまりごとの評価規準」、「単元の評価規準」、の関係性を確認する。



学習指導要領と「内容のまとまりごとの評価規準」、解説と「単元の評価規準」との関係性, については, 左図に示したとおりとなる。

学習評価の進め方（科目保健）

単元の目標を設定する

- （１） 環境の汚染と健康，環境と健康に関わる対策，環境衛生に関わる活動について，理解することができるようにする。
- （２） 環境と健康に関わる情報から課題を発見し，疾病等のリスクの軽減，生活の質の向上，健康を支える環境づくりなどと，解決方法を関連付けて考え，適切な整備や活用方法を選択し，それらを説明することができるようにする。
- （３） 環境の汚染と健康，環境と健康に関わる対策，環境衛生に関わる活動について，自他や社会の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

・単元の目標の語尾は，「～することができるようにする。」

単元の評価規準作成のポイント（科目保健）

○「知識・技能」のポイント

「知識」については、解説の「～理解できるようにする」と記載してある部分の文末を「～について、理解したことを言ったり書いたりしている」として、評価規準を作成する。

「技能」については、解説の「～できるようにする」と記載してある部分の文末を「～（行い方・対処）について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、（～が）できる」として、評価規準を作成する。

○「思考・判断・表現」のポイント

学習指導要領解説における「2 内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関する記載を基に評価規準を作成する。その際、〔例示〕に記載された内容を踏まえるとともに、実際の学習活動に合わせ、文末を「～している」として、作成する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

改善等通知における「主体的に学習に取り組む態度」の「評価の観点及びその趣旨」に示された内容等を踏まえ、文末を「～しようとしている」として、評価規準を作成する。

単元の評価規準設定例（科目保健）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であること、そのために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていること、その現状、問題点、対策などを総合的に把握し改善していかなければならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>①環境と健康について、それらに関わる事象や情報などを整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>②人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。</p> <p>③環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	<p>①環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>*各観点とも細分した評価規準を想定するが、順序性を示すものではないことに留意する。</p>

「知識・技能」と「思考・判断・表現」は学習指導要領解説保健体育編の内容や例示等を基に作成した。

「主体的に学習に取り組む態度」は評価の観点の趣旨を参考にして、実際の学習活動をイメージして作成した。

指導と評価の計画の作成例（科目保健）

	主な学習活動	知	思	態	評価方法
1	<ol style="list-style-type: none"> 「働くことの意味」や「理想の仕事」について考え、ワークシートにまとめる。 産業構造の変化に伴い、働き方の多様化が進んでいることについて、説明を聞く。 産業構造や労働形態の変化に伴って健康面にどのような変化が現れたかを、資料をもとに整理する。 過重労働などが原因でストレスを強く感じたり、過労死や自殺にいたったりすることがあることについて説明を聞く。 	①			ワークシート
2	<ol style="list-style-type: none"> 前時までの学習を振り返る。 労働災害が発生した事例をもとに、労働環境を改善し、安全な職場の整備を推進するための方策について考える。 働く人の健康状態を把握するための方策及び職場における健康増進活動について説明を聞く。 労働者の健康保持について、健康診断の意義や健康診断の結果を踏まえた適切な事後措置を考える。 労働災害を防止するための方策について、ワークシートにまとめる。 		①		観察 ワークシート
3 (本時)	<ol style="list-style-type: none"> 前時までの学習を振り返る。 職場の健康管理や心身両面にわたる対策の重要性についての説明を聞く。 事例をもとに、職場における健康づくりの問題点について、自分の考えをワークシートにまとめる。 自分が職場の責任者だったら従業員の健康づくりのためにどのような取組ができるかを個人及びグループで考え、発表する。 各グループの発表に対し、従業員の視点から提案する。 職場における健康づくりの取組について、自分の考えをワークシートにまとめる。 	②		②	観察 ワークシート
4	<ol style="list-style-type: none"> 前時までの学習を振り返る。 労働と健康に関係する法律等が制定された背景や余暇の有効活用について説明を聞く。 余暇を有効に活用するために必要な条件について調べて、グループで話し合う。 生活の質の向上と健康の保持増進について、自分の考えをワークシートにまとめる。 単元を振り返り、学習したことをこれからの生活にどのように生かしていくかをワークシートにまとめる。 	③		①	観察 ワークシート

学習活動と重点化した
観点の整合性を確認

単元の評価規準の番号
を記載

評価方法を記載

「知識・技能」のポイント（科目保健）

「知識・技能」の評価に当たっては、実習を通して理解を深め、基本的な技能を身に付けている学習状況を確認できるように、ワークシート及び観察による評価を行うことが考えられる。

その際、ワークシートの項目を工夫することが重要である。また、既
有の知識及び技能と関連付けたり、活用したりする中で、生活の場
面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を身に付けたり
しているかについても評価できるように工夫することも考えられる。

なお、実習における評価場面では、技能だけでなく、知識と一体的に評価することに留意する。

「思考・判断・表現」のポイント（科目保健）

授業において一人一人をより多面的に捉え、より妥当な評価を行うためには、観察やワークシート、生徒との対話、ペーパーテストなど、多様な評価方法を工夫し、組み合わせしていく必要がある。

- 観察の視点を明確にすること。

- ワークシートの項立てを工夫すること。

「主体的に学習に取り組む態度」のポイント（科目保健）

<p>予防について、グループで話し合い、予防に必要なことを分類し、発表する。</p> <p>5 振り返り及び本時の学びの姿について自己評価を行う。教師から、望ましい学びの姿の事例の説明を聞く。</p>			<p>議の習得に向けた粘り強い取り組みを行おうとしている姿を観察</p>	<p>自己評価の記載から、試行錯誤しながら知識を習得しようとしているか確認</p>	<p>生徒の学習改善及び教師の指導改善につながる評価</p>
<p>2 1 前時のワークシートの記入から、次は何を学習し、そのために他の人の意見を聞き出すなど「学習の調整の仕方」について説明を聞く。</p> <p>2 がんの発生についての説明を聞き、がんの種類とその5年生生存率について資料からワークシートにまとめる。</p> <p>3 我が国のがん検診受診率について、地域間や男女間で比較することにより、課題について、個人でまとめた後、グループで話し合い、発表する。</p> <p>4 がんの治療方法、がんの患者等の生活の質の向上や緩和ケアの必要性についての説明を聞く。</p> <p>5 振り返り及び次時の学びの見通しについて整理する。</p>	<p>②</p>	<p>①</p>	<p>学習活動2 がんの種類と5年生生存率について、様々な方法で調べようとしているか観察</p>	<p>学習活動3 がん検診の受診率について、様々な視点から粘り強く課題を整理しようとしているか観察</p>	
<p>3 1 既習内容との関わりや次に生じる課題や疑問について自ら考えることができるよう学習の見通しをもつ。</p> <p>2 個人でできる生活習慣病などの予防や回復に関する取組についてグループ内で意見を出し合う。</p> <p>3 個人の取組が進まない理由についてグループで話し合い、課題をワークシートに整理するとともに発表する。</p> <p>4 振り返り及び次時の学びの見通しについて整理する。</p>	<p>③</p>		<p>学習活動2 グループ内で意見を出す際、たくさんの意見を出そうとして粘り強く調べようとしている姿を観察</p>	<p>学習活動3 個人の取組が進まない理由を様々な方法で調べようとしている姿を観察</p>	
<p>4 1 前時の学習内容から、生活習慣病などの予防や回復に向けて、社会的な対策の必要性や課題について振り返る。</p> <p>2 グループごとに課題を設定し、社会的対策について個人でワークシートにまとめる。</p> <p>3 グループで話し合い、発表する。</p> <p>4 3の内容を踏まえ、グループで役割を決め、様々な立場から対策を考える。</p> <p>5 社会的対策の課題と対応策について、グループで提言を行う。</p> <p>6 本時の学びの姿について振り返り、ワークシートにまとめる。</p>	<p>②</p>	<p>①</p>	<p>学習活動4 グループ活動において、様々な視点から対策を考えながら取り組もうとする姿を観察</p>	<p>学習活動6 ワークシートの自己評価の記載から、学習活動に粘り強く取り組もうとする意思を確認</p>	
	<p>評価の総括</p>		<p>単元を通して、粘り強い取組の中で自らの学習を調整しようとする姿を総括</p>		

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は1時間目から4時間目までの知識及び技能の習得や思考力、判断力、表現力の育成の過程における、粘り強い取組を行おうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面から総括して評価する。

観点別学習状況の総括（評価結果のA B Cの数を基に総括する例）

<div>時</div> <div>観点</div>		1	2	3	4	5	総括
		大気汚染と健康	水質汚濁及び土壌汚染と健康	環境と健康に関わる対策	上下水道の整備，廃棄物の処理	新たな環境問題と環境衛生活動	
生徒1	知・技		A	A	B		A
	思・判・表	A		B	B		B
	態度					B	B
生徒2	知・技		C	C	A		B
	思・判・表	C		A	A		B
	態度					A	A

単元の評価規準に照らし、「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）により評価を行い，Aが半数を超える場合にはA，Cが半数を超える場合にはC，それ以外はBとする考え方に立って総括を行う。また，AとCが同一観点に混在する場合は，Bに置き換えて集約する。

新学習指導要領改訂のポイントと学習評価 (高等学校 保健体育科)

文部科学省
スポーツ庁

政策課教科調査官 関 伸夫 横嶋 剛